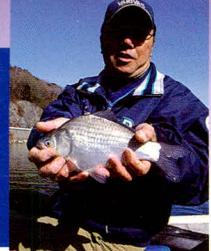


今月の表紙は、満を持して(?)、本誌特集に御協力頂いている名手・伊藤洋一の登場だ。

この日は特集IIの取材で、精進湖での釣り。写真は黒岩ロープにて、「5月号ということ…」と、無理矢理ダウンウェアを剥ぎ取り(?)、寒風の中、カメラマンと伊藤が執念で収めた1枚だ。

庄屋の良型イレバクに塞さも吹き飛ぶ。春は来た!



- 8 **2ヶ月連続特集** 年に一度のお祭りがもうすぐ来る!!
関東乗込み場大集合 PART II
牛久沼・小貝川・岩井・野田・荒川水系・群馬を中心にお3カ所一挙公開!
- 178 **特集II** 精進湖開幕スペシャル。
春だ! 精進湖へGO!
他手合R&黒岩Rで伊藤洋一が快釣!
気になる「中の湖」エリアのポイントも解説!

2 追悼 荘野諒爾さん逝く

- 18 名手・石井旭舟がいく、へら鮎出会い旅… へらぶな浪漫街道
《第五回》豊英湖(千葉県君津市)
- 26 スーパーアングラー小池忠教のエサ合わせ大全
《Vol.5》アートへラ・ポンド、「究極の底」を両グレで撃破!
- 34 大型狙いの楽釣宣言! 山内研作&生井澤聰
《第5回》高滝湖(千葉県市原市)
- 40 棚網 久の対決mode 1, 2, 3!
《Battle.26》谷和原大沼、長竿ボンバー対決!
チャレンジャー: 小野淳一 VSトーナメント: 安田克巳
- 46 皇居のお濠(牛ケ淵)で外来魚捕獲作戦実施。期待の2尺のへら鮎は…
- 118 杉山達也のSPLASH BEAT II
《Vol.5》超満員! 強風! 荒れる弁天FC月例大会!
- 126 田辺哲男の「それってどーゆーことよ!?」
《Vol.5》両ダンゴ底。吉野 修のPower balance釣法!!
筑波白水湖(茨城県つくば市) ゲスト: 吉野 修
- 130 熱血釣り女・吉川ひとみがいく! 「へらってヤバイわっ!!」
《第11回》「椎の木湖に大雪警報発令! ?」
GUEST: 石井旭舟 椎の木湖(埼玉県羽生市)
- 134 釣りクラブ見参!
《第44回》八千代へら研東雲会 野田幸手園(千葉県野田市)
- 136 頑固一徹! 自分の釣りを貫き通す男
《今月の釣り人》軟調子の竹竿に徹する男 赤井 甫さん
- 138 竹は活きている
⑤千葉県内の竹は枯れている!
- 140 列島縦断 旅するカメラ
《千葉県32》館山市 九重川ほか
- 188 西日本川釣り紀行 北川穂積
《第5回》加古川(兵庫県)
- 192 フィッシングレディ
《今月のレディ》荒谷裕美さん 柳生FP(群馬県板倉町)

50 **緊急特集!!** ~日本第二の湖に流入する河川~
霞ヶ浦の乗込み場を探る

- 56 新連載 あらいしのぶの始めてみようよ、へら鮎釣り!
《第1回》へら鮎ってどんな魚なの???
- 58 電話で突撃!! 関東近辺釣り場情報
- ★エリアレポート
62 南良津池(福岡県)
64 河北潟(石川県)
65 水藻FC(大阪府)
66 前ヶ平大池(愛知県) 河口正伸
山本一朗
前田誠志
後藤 誠
- 68 ガツツ小林が攻めまくる 若さとファイトの激釣記
《第10回》鬼東沼(栃木県真岡市)
- 73 江成公隆のトーナメント、復活への道。
佐原水郷が生んだ奇才・北城 錦登場!!
《Vol.11》北城 錦の底釣りゼミ⑤ in中島屋(?)
- 78 人間カーナビ稻毛利夫の実釣! 野べら釣り歩き
《第5回》大町池ほか(埼玉県児玉町)
- 82 GOZYUKKAMI TREASURE HUNTER アマヤン 天野正由
《その5》みんないい人はっかりだ! 田貫湖~相模川~津久井湖
- 86 水辺のプラネタリウム 吉本亞土
《今月の星空》「地下の魚 天上の魚1」
- 91 元気が出るへら鮎 西田美明
《第5回》「もうすぐ春が」の巻
- 94 本誌イケイケ編集長が斬る! 業界のタブーに迫る!!
《第5回》どうしたらインストラクターになれるのか?③
- 98 最狂へラ戦士養成所“鮎の穴” 高橋謙司
《第四話》今月の指令: 最強の刺客、フロート娘と対決せよ。
- 102 野田幸手園新聞
- 104 ワクワク管理釣り場情報
- 108 小売店情報
- 146 旅するカメラ 取材番外 思い出話
《第4回》日本一の琵琶湖の旅①
- 149 竹、合成竿を使用した 未開の釣り場 釣行記
《その13》西の洲干拓北水路(茨城県稻敷郡)
- 156 平成14年度 相模湖大型表彰式
- ★へら鮎BOX
161 里ちゃんの新米編集長雑記
162 情報地獄三ミ
164 ボイス
169 新連載 新人モロちゃん奮闘記
170 わが輩はへら鮎である
171 プレゼント発表
172 釣果予想クイズ
- 175 広告索引
176 編集後記

※「人物往来」は誌面の都合により休ませていただきます。

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメントー、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web連動企画！（URL）http://hesar.yokohamatsurumi.net

いったいいつまで続くのか…。

「北城 錦の底釣りゼミ」、堂々の5カ月目に突にゅう～！

そして、今月もドン深～！

今月の掲載分では、ドボンの核論を中心に、ついに実釣編へのプロローグにまで足を踏み入れていく。

また、この企画、

本誌の他の記事とも「シンクロ」を見せ始めている。
終盤に突入し、ますます目が離せない北城 錦理論…。

あまりの熱筆、徹夜続行で崩壊寸前と噂される、
江成家の家庭からも、ますます目が離せないぜ！

by 里ちん

佐原水郷が生んだ奇才・北城 錦登場!!

〈Vol.11〉 北城 錦の底釣りゼミ⑤ in中島屋 (!?)

☆みんな4月号読みました？

4月号の小池忠教さんの記事

(エサ合わせ大全)、みなさん読みましたか？ まさかドボンだからといって読み飛ばしていいでしょ？ フィールドも横利根川で、まさに北城ゼミとシンクロしてます。使用する仕掛けに若干の違いはあります、基本的な考え方一緒でした。

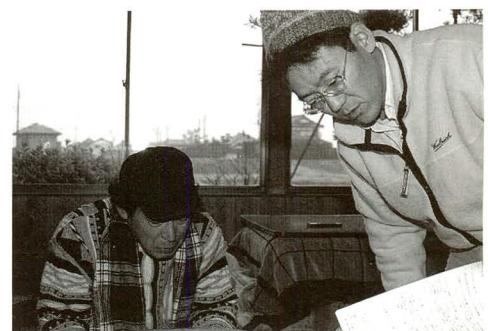
里ちんから「小池さん、横利

根でドボンの取材したよ」と聞いていたので、4月号は楽しみでした。が、読んで感じた事があります。それは、「名人と呼ばれる人達は、話を聞いてみると実は同じ理論に到達しているのではないか？」ということなのです。

どうぞ今月号の「ゼミ」と合わせ、もう一度4月号の小池さんの記事も読み返してみて下さい。ホントは先月号の「ゼミ」にドボンの原稿全て入ればタイムリーだったんですが、字が多く過ぎて入りきらなかつたんです。この事はBBS(ホームページの掲示板)に書いたので、一部の読者の方は知つてましたね(笑)。

※文中、「バランス(の底釣り)」と「バランスのドボン」という二つの用語がほぼ交互に出て来ます。紛らわしいので注意して読み進めて下さい！

北城 錦の底釣りゼミ⑤



ドボンのセッティング考。

北：ドボンの釣りでスレアタリと食いアタリの区別が付けられるのかって？ 状態によっては食いつ走りではなく、食った瞬間のアタリが出ている場合だってある筈だけど、最終的にはスレアタリと食いアタリの区別は付けられないと思ってる。それでも、よく動くセッティングというものはあるけどね。ここからが本当のドボンの研究という部分になってくるわけ。
先輩達がそれこそ血のにじむような努力で編み出した釣りを、俺なりの解釣を交えて説明してみよう。
ここで俺が説明するのは「じく軽めの外通しオモリとバランスオモリを付けるタイプのドボン」、つまり「バランスのドボン」と呼ばれるやつね。ちなみに「超・軽めのドボン」とは、超小ウキで、なおかつ仕掛け全体のオモリ総量がトップがやっと沈没って事だから、普通はバランスオモリは付けない。付けるとしたらドボン用のオモリの量が少なすぎて調整が難しいだろうね(笑)。
さて、アタリを伝えるためには仕掛けはなるべくまっすぐな方がいいよね。さつき言った「くの字」、つまり途中で曲がっている(折れている)と、伝わる動きはそこでかなりロスしてしまってから。クッションになってしまふと言えば分かりやすいかな。
江：なんとなく分かりますが、北城さんも言うようにドボンは必ず折れる事になりますよね？
北：うん。だからこそ、よりアタリをスパイクしにくい仕掛けの開発が必要だったんだね。先達はまず最初に、オモリの形状を選択する事にしたんだ。「中通し」と「外通し」のどっちを選択したかって事は、俺がもう喋っちゃってるからクライズにならないけど(笑)、何で外通しオモリだから分かる？
江：同じオモリ負荷で比べた場合、そんなに差はないですが…。この質問に答える前に、

ひとつ確認させて下さい。僕の「実際はオモリごと動いてしまう」というコメントに対しても、「セッティングによってはオモリの中を道糸が動く場合もある」という回答でしたが、これは中通しオモリを使った軽めのセッティングでの話ですね?

北：オモリの中つていうんだから「中通しオモリ」の事になるよね。でも外通しオモリの「輪の部分」の事をオモリの中と捉えれば、両方について言えるよね。まあそれは置いとくとして、軽めのセッティングよりも、むしろ重いオモリと小さいウキという組み合わせの方がオモリの中を動くと思うけど…、どうかな？ 軽めのセッティングではオモリはかなり立ち気味だから、バランスの底釣りに近い状態だ。だから斜していないだろうから「くの字」も大きい。つまりオモリごと動くくらいでないとアタリが出ない筈だよね。というか動きやすいセッティングな訳だけ。

江：あ、そうか…。では、どんなセッティングでもへらが引く方向によつてはスムーズに動かないという事でいいですね？ 引く角度によつて道糸がオモリに引っ掛かってしまえば、やっぱり道糸は中で動かすにオモリごと動くと。

北：…。

江：中通しと外通しでは、道糸との接点の数に差があつて（中通しは入り口と出口の2箇所、外通しは1箇所）…、単純に「くの字」の数が少ないので外通しですが、へらに引かれる方向によつてはそれも意味がないわけだし…。

北：うーん。「くの字」については、純粹に道糸の折れつていうことであつて、「くの字」のせいでオモリの中を動く動かないっていう話になつてしまふと、ちょっとズレときちゃうかな。オモリの中の道糸の遊動性は、このセッティングにあんまり関係ないというか、期待してないんだ。道糸との接点の少なさで外通しひつてのは、とりあえず間違ひではないと思うけど。

江：すいません、もう少しヒントをもらひませ

んか？ ここから先はちょっと想像がつきません…。

北：外通しオモリはそのまま装着するだけですか？ オプションを付けられるオモリだよね。

江：あの棒みたいなやつですか？ オモリの号数を変える時に便利なやつですよね？

北：それ！ 商品名つて俺もよく分かってないんだけど（笑）、みんなシャフトとか首とか色々な名前で呼んでるアレ（笑）。アレ、オモリ交換に便利なだけじゃないんだよ。水中でどういう状態になつてると思う？

江：道糸に（ウキに）引っ張られて、立つてるとか起きてると思います。あつ！ もしかして振り子になるって事ですか？

北：その通り。あの棒のおかげで、道糸が自由に動けるというわけ。もちろん普通のバランスの底釣りに比べれば動きは少ないはずだけどね。あの棒は別にわざわざ買わなくて、絡みさえ防げれば糸だつて何だつていいよ。

江：なるほど…！ あの棒にはそういう意味があったんですね！ 使っている人は結構いるんで、どうやら北城流ドボンは特別変わった仕掛けの話ではなさそうですね。でも仕掛けを理解して使つているかというと、僕の場合はノーペース。ぜひ詳しく教えて下さい！

北：ここからは図を書いて説明しよう。バランスオモリの位置も重要ななんだ。

江：遊動式という部分にこだわれば、このバランスオモリは上のストップバーという役目にもなるんだけど、振り子式になつたわけだからあまり気にしなくていい。今度はバランスオモリが作る「くの字」を意識して仕掛け全体を見てどちらが外通しオモリとくつけておいた方が、外通しオモリとくつけておいた方が、「くの字」は1箇所で済むでしょ？

江：なるほど…。これだとその角度に差があるとは言え、「くの字」は普通の底釣りと同じ1箇所ですね。北城さんは、いつもくつづけているという訳ですね？

北：それがそうでもないんだよ（笑）。なぜか」というと、バランスオモリから下の部分が、底付近のへらの気配を読み取るためにアンテナになるからなんだ。気配つて言つてももちろん糸

ズレの事だけね。オモリの上より下の方があのテナになるのは、江成君だって普通の釣り（底でも宙でも）で経験済みでしょ？

江：確かにそうですね。ところが普通のドボンではオモリより下は底面に寝てしまつてるので、だから棒付きの外通しで少し起こしてやる

のであり、さらにバランスオモリの位置を調節する事でよりアンテナの感度を上げてやるって事ですね？

北：うん。でもやっぱり適量が大事だから（笑）、あんまり離さないようにな。せっかく減らした「くの字」が増えちゃうから。少ししか離さなくとも厳密にはそこまで一つ「くの字」は出来てしまうんだけど、近付けた方が道糸はより直線に近いからね。この釣りが得意だつていう人の多くは、バランスオモリの位置にはすぐ気を使つるなんなんだよ。

江：なんだか宙のオモリ飛ばしに近いものを感じますね。ハリス長の調整ではないので、へらの追いやタメつていうわけじゃないですけど。

北：アタリの出方という点では、まさにそうだ。ここでもう一度図に注目して欲しいんだけど、「ヨリ戻しは使わない」って書いてあるでしょ。ヨリ戻しは使わなければストップバーの位置を変える事でハリス長の微調整が出来る訳だけど、ここで一番大事なのは余計な「くの字」防止のため。ヨリ戻しを下のストップバーとして使つてゐるんなら仕方ないけどね。

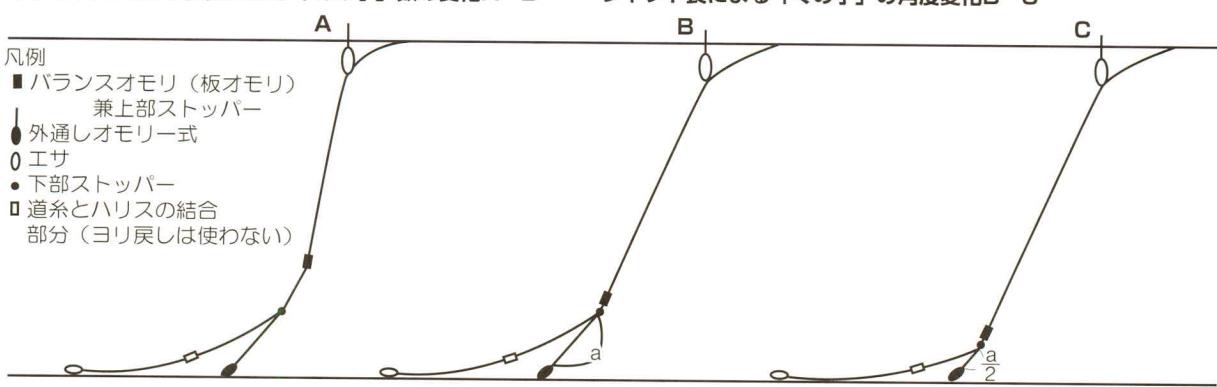
江：逆に宙のオモリ飛ばしでは、ヨリ戻しを付ける事にこだわる人もいるんだよ。仕掛けの張りというかアタリの出方というか、微妙な部分ですね。底と違つてハリスが寝るわけじゃないから、辻褄は合うよね。オモリを上に飛ばしたことで長くなり過ぎたミチイト+ハリスの部分に最低限の「張り」を確保するため、アタリをウキにちゃんと伝えるために、微細な重さを持つヨリ戻しを利用して、軽い「くの字」を作つてやるんだね。

江：その話は聞いた事がありますよ。以前、たしか早川インストラクターが千代田湖で言つてました。

江：…その話は聞いた事ありますよ。以前、たしか早川インストラクターが千代田湖で言つてました。

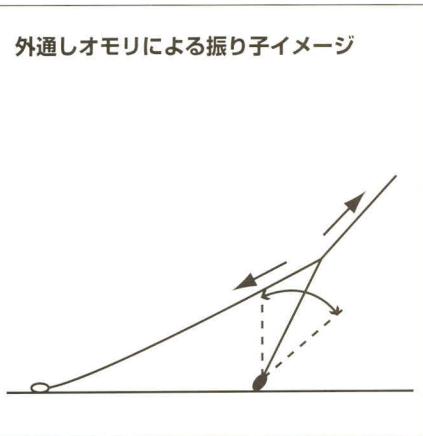
バランスオモリの位置による「くの字」数の変化A-B

シャフト長による「くの字」の角度変化B-C



セッティングとリズムの調和。

北・外通しオモリに付ける棒の長さについても説明しておこう。



振り子なんだから単純に長い方がその動く幅は大きいし、短ければ小さい事になる。動きの伝達能力に差が出てくるね。と言つても、2セントチ・5センチ位の幅のことだけど。もうひとつ視点としては、棒の長さによって「くの字」の角度が決まるという事。あまり沖に着底しないような軽めのセッティングの場合、棒が短すぎると「くの字」は直角に近い。仕掛けの伝達能力がちょっと心配だね。底がヘドロの時なんかも短いのはダメだね。潜っちゃ外通しの意味が無い（笑）。

江：なるほど、って、さっきからこれしか言つてませんね（笑）。

北：バランスオモリの量についても説明しよう。普通の底釣りと違うのは、基準となるバラ

北・ドボンのメリットをいくつか挙げたけど、それらをほぼ全て満たして、尚且つウキがよく動くセッティングだと思ってるんだけどね。エサのテンションがどれしていく様が、トップで確認出来るくらいなんだから。でもやっぱり、スマートが多いというデメリットだけは解消出来ないんだよ。慣れもあるんだけど…。よく動く／スマートさらに増える（笑）可能性は大だね。どうしてもダメだっていう人は、中通しの方がいいのかな。俺が言つた「釣りを簡単にするドボン」というのは、バランスのドボンの説明から逆に考えれば、外通しではなく中通しという事にならでしょ。ただ今回紹介したセッティングの考え方も憶えておいて損はないと思うな。

北：ああ、さっき俺が言った事ね、ナランブの底釣りでのオモリベタよりは安定すると思うけど？ それにオモリが二つに別れた時点で強烈なアンカーハーは期待出来ないし、そんなオモリじや動きも少ないよ。まさかドボンの効果が、流れ対策だけだなんて思ってる訳じゃないよね？ ここまで喋らせておいて。

の座りの良さってのはあまり期待出来ないです
よね？ オモリの総量は確かにウキの浮力より
大きいんですけど…。

掛けをタナへ届けたいとか、もつと沖目へ届けたいだとか、流れなんかで少し大きめのオモリにするとかの調整はもちろんするけどね。

ラヌス位置だよね。俺はトップの付け根から1目盛沈めくらいを基準としている。出し気味のバランス位置ならトップを沈めて待つのはアタリを殺すし、沈め気味のバランス位置はシモリに弱い。これは普通の底釣りといっしょの考え方だけど、どっちがいいかの判断は凄く難しいよ。糸ズレは出ているとしても、食いに繋がる本当のサワリがきちんと出ているわけではないから…。一日に何度も悩むところだね。外通しオモリの量は、竿を送ってトップがゆつくりと出てくるくらいのごく少量が基本。厳密に言えば、ウキの戻り方は仕掛けの角度にもよるんだな。まあ大本0・2号くらいかな。早く仕

江… 実際どのくらいのテンポで打ち返すもんなんですか？ きつちり10数えて…てな事をやつてるわけじゃないですかね？

北… そういう人もいるみたいだけど、まあそこまできつちりやらなくていいんじゃないかな。要是必要以上には待たないって事。ドボンが動きが乏しいので、ついつい待ってしまう人が多いからね。どの程度「必要」なのかは、その日その時で変わるんだから何とも言えないけど（笑）。

江… 僕もそういう人の一人です（笑）。振り込み法が振り切りになるんでエサもシメ気味にするじゃないですか。だから余計に安心して待つちゃうんですね（笑）。

北… おっと、それは間違いだ。聞いて良か

底釣り以上に意識してリズムを作つていかなければならぬんだ。俺の場合、バランスで釣っている時よりもまず待たないよ。速い打ち返しによるタナの崩壊（ワワズリ）という危険性への対策は、ドボンが持つタナの凝縮効果にお任せしてる（笑）。リズミカルな打ち返しのメリットとしては、居食いを防止する効果もある。ま、オマケなんだけど結構馬鹿にならないよ。本来アタリが出にくい釣りなんだからね。

江..「エサのテンションがとれていく様が分かる」という事だったんで期待はしてたんですけど、冷静に考えればそりゃあエサ落ちまでは無理ですよね。でも普通のバランスの底釣りだって、厳密に言えばウキの目盛の位置だけではなく完全なエサ落ちは掴めないわけですし、掴めたところで必ずそこまで待つ必要もない訳で。

江…とても勉強になりました。こういう細かい部分の説明を受けたのは初めてだつたんで感激です。他にドボンについて、仕掛けのセッティング以外で何か注意する事はありますか？

北：打ち返しのリズムがドボンには重要だね。これは結構多くの人が書いてると思うけど、ドボンはエサの持ち具合が拘めないと釣りだから、一定のリズムで打ち返さないとマズいよね。いくらよく動くドボンを研究しても、エサ落ちが分かる訳じゃないしね。

「ヨリ戻しかがくの字を作る」意味を完全に理解しました。ヨリ戻しきをストッパーにする分には、水中ではシャフトと常にくつついてるわけで、新たに「くの字」は増えるのだろうか?と感じてたんです…そうか、なるほど…それだけで絡みを防げたんですねえ。僕もいつも絡んで困ったんですよ。それでも何の解決策も思い付きませんでした。というより考えたこともなかつたです。日頃から頭で釣ろうとしているなんて言つておきながら、全然考えてないんですね。ちょっとシヨックです…。あ、考えた事がひとつだけありました。「外通しは絡みやすがひ」とつだけありました。(笑)。

北：そういうのは「考えた」じゃなくて、「思つた」こと(笑)。

欲しいんだ。便宜上一本パリになってるから気付きにくいくらいと思うけど実際は2本でしょ。ハリストの分歧点がオモリより上にあると絡みやすいからね。大事な事だよ。だからヨリ戻しをストップーにしてしまうと絡みやすいわけだ。シャフトの接点を上に上げるため、結局ストップーを付けるんならヨリ戻しはいらないでしょ? って話に戻るんだけどね。

北..もうひとつだけ外通しで大事な事があつた
よ。図の中のハリスと道糸の結合部分をよく見
てみて。結合部分がオモリより下になるように
いつもそ�だとは言つてないけど、
江..失礼しました..。

つたよ。バランスの底釣りからドボンで切り替えたとしたら、エサはいくらかアマくするのが基本。落下が速い分、早く食い頃にしてあげないと。そうしないと速いリズムでの釣りが成立しない。振り込みはエサが飛ばないようによまくやんなくちゃ（笑）。

江…それは北城さんが言うところの人間都合いやないですか？ そんなにうまくいくとは思えないんですけど…。

北…そうだよ。もちろん待ち釣りになるケース

75

「流れ」の中での組み立て。

江：ドボンの効果が流れ対策だけというわけではないのは十分理解しましたが（笑）、それでも大きな効果のひとつですよね。「流れがつく」というのは実際の釣りでよくあるケースなんで、ここでドボン以外の流れ対策というか注意というか、北城流の基本的な考え方を教えて下さい。

北：と言わても…何から答えればいいかな？
江：例えばこれは底釣りに限ったことじゃないですけど、流れがつくとエサをシメるとかありますよね。他には、流れの上に打つて流すか、それとも下に打つて止めるかとか色々あると思うんですよ。あっ、これも底釣りだけの話じゃないなあ（笑）。

北：なるほど、そういう話ね。先に「流れの上に打つて流す（穂先で追う）か、それとも下に打つて（穂先で）止めるか」について答えよう。これはケースバイケースだと思うね。その時に実際にやってみて比べた方がいいと思う。さうに「上に打つて流す」時でも、サワッたら穂先で止めるケースと、止めないケースがある。これも試してみた方がいいね。理屈じゃない部分だと思うよ。

江：流れ対策として底釣りに限って言えば、ドボンやハリスオモリという手があるわけですね。ドボンはもういいんで（笑）、ハリスオモリについて教えてもらいませんか？ 北城さんがよく使う手だというのは、以前の北城さんの連載でチェック済みです！

北：ハリスオモリ？ あれはあくまでも様子見の技だよ（笑）。コテコテの野釣り用のネ。流すと釣れない時に、ちょっとと止めてみたらどうかな、と。仕掛けのバランスから見たら、まともじやないってのは分かるでしょ？ 賢いへら

江：回か試した事あるんですけど、あまりアタらない

いような気がして…。それにアタつてもスレやカラばつかりで。
北：どこでやつたの？
江：白水湖とか、幸手園ですね。
北：そりや無理だよ（笑）。

ところでだ。さっき江成君も言ったけど、流れがつくとエサをシメる」というセオリーがあるね。俺はねえ、このセオリーはちょっと違うんじゃないかと感じてるんだよ。もちろん北…と言わても…何から答えればいいかな？

江：おおっと、出ましたね「キタシ論」！ 僕的にはこのセオリーは疑う余地はないんで、非常に興味深いですね～！

北：そんなに大袈裟にしないでよ（笑）。結果的に、流れが出てエサをシメて正解だったといいますよね。他には、流れの上に打つて流すか、それとも下に打つて止めるかとか色々あると思うんですけど、流れがつくことじゃないですけど、流れがつくとエサをシメるとかありますよね。他には、流れの上に打つて流すか、それとも下に打つて止めるかとか色々あると思うんですよ。あっ、これも底釣りだけの話じゃないなあ（笑）。

江：なるほど、そういう話ね。先に「流れの上に打つて流す（穂先で追う）か、それとも下に打つて（穂先で）止めるか」について答えよう。

北：これがケースバイケースだと思うね。その時に実際にやってみて比べた方がいいと思う。さうに「上に打つて流す」時でも、サワッたら穂先で止めるケースと、止めないケースがある。これも試してみた方がいいね。理屈じゃない部分だと思うよ。

江：流れ対策として底釣りに限って言えば、ドボンやハリスオモリという手があるわけですね。ドボンはもういいんで（笑）、ハリスオモリについて教えてもらいませんか？ 北城さんがよく使う手だというのは、以前の北城さんの連載でチェック済みです！

北：なるほど、そういう話ね。先に「流れの上に打つて流す（穂先で追う）か、それとも下に打つて（穂先で）止めるか」について答えよう。

江：なるほど、そういう話ね。先に「流れの上に打つて流す（穂先で追う）か、それとも下に打つて（穂先で）止めるか」について答えよう。

北：これがケースバイケースだと思うね。その時に実際にやってみて比べた方がいいと思う。さうに「上に打つて流す」時でも、サワッたら穂先で止めるケースと、止めないケースがある。これも試してみた方がいいね。理屈じゃない部分だと思うよ。

江：流れ対策として底釣りに限って言えば、ドボンやハリスオモリという手があるわけですね。ドボンはもういいんで（笑）、ハリスオモリについて教えてもらいませんか？ 北城さんがよく使う手だというのは、以前の北城さんの連載でチェック済みです！

北：ハリスオモリ？ あれはあくまでも様子見の技だよ（笑）。コテコテの野釣り用のネ。流すと釣れない時に、ちょっとと止めてみたらどうかな、と。仕掛けのバランスから見たら、まと

もじやないってのは分かるでしょ？ 賢いへら

江：回か試した事あるんですけど、あまりアタらない

味合いで使われてはいないようだ。それなら、「活性が落ちたらエサをシメる」というセオリーでいいじゃない。開かせて活性を上げるケースもあるだろうけど、どちらにしたって流れは関係ない。

江：まあそうですねえ…。

北：「流れで追い切れないからシメる」ということもよく言われるね。この日本語おかしいでしょ。「追い切れないとしたら、それは仕掛けだよね。エサの持ち具合は関係ない（笑）。

ま、これは冗談としても、開きが早くなる事で、食うタイミングより先にエサが抜けちゃうのを防ぐためにシメるって事を言いたいのかもしれないけどね。でも俺的には「流れ」で「開きが早くなる事」はないので（笑）。

江：うむ、いつもながら説得力あるんですけど…。でも経験では、流れがついてアタリがなくなったのに、シメたら復活したってのは山ほどありますよ。

北：シメで好転したケースってのはもちろん俺も何度も経験してるよ。おそらく江成君より経験は多いと思うよ（笑）。実はこういう時って、流れが出る前から本当にシバかつたんだろうと思ふんだよね。つまり流れが出る前の動きってのは、止水だからこそ出していた糸ズレではなくたかったかと考えているんだ。

江：そ、そこまで考えてあるんですか…。でも流れが出る事でエサの開きが変わらなかつたとしても、結果としてエサの粒子は広範囲に広がりますよね。それはへらを凝縮出来ないという事にもなるわけですから、エサをシメる事で粒子の拡がりを少しは抑えられるという解釈はどうでしょう？

北：つまり「へらの拡散」でしょ、別に問題ないんじゃない？ タナの凝縮とエサの開きの関係としては。

江：へつ？

北：工サをよりアマくするんですか？

江：違う違う！ 我の言い方が悪かったのかな。エサを変える必要なんかないんだよ。流れがつけば、いつまでも待ってられないんだから、一定の位置で打ち返す事になるでしょ。そ

うすると必然的にエサ打ちのテンポが上がってくるわけだ。止水の時ならテンポを上げればパンクするかもしれないけど、流れがあればテン

ポを上げてもそれまで使っていたエサでOKよ

うつてこと。もちろん活性が高い時に限つての話だけね。

江：分かりましたヨ！ その理論があるため、「流れがつくとエサをシメる」セオリーが

イマイチ気に入らないってわけですね？

北：そういうこと（笑）。

* 里ちゃん注：本誌愛読者ならばすでにお気付きのことと思われるが、この理論はまさに、2月号「田辺哲男のそれって…」に登場したガツツ小林氏の「イーグル理論」の一部と合致する。この「ゼミ」の取材は昨年末に行われているので、「イーグル理論」

のパクリではないという事を、取材に立ち会った証人として強調しておきたい。現役バリバリの若手ト

ーナメントの最新理論も、氏にとっては当然のよ

うに守備範囲であったのだ、里ちゃん降参…。

「波」は別ですかね？

北：もちろん。波は仕掛けを「揉む」からね。全然パワーが違うよね。

江：新セオリーです！ 「波が出たらエサをシメる」。

る。

「底が悪い」ケースへの対応。



江..底釣りを組み立てる上では、「底の状態」も重要視されますね。「底が悪い」と、戻りが出ていいですから、判断が難しいわけです。ボイントを変えられるなら問題ないんですけど（笑）、そうはいかない事の方が多いと思います。

「悪い」底で釣り続けなければならない場合、名人と呼ばれる人達の間でも意見が分かれているようですが、「切り気味のタナで釣る」と「ズラシを多くとる」の一通りあります。

北城さんはどうお考えですか？

北..イメージ的には、どちらでも底の悪さをかわせそうだけど、俺は「切り気味」派だね（笑）。ズラシを多くとれば戻りやすいのは事実だけ

で、それよりも、悪い底に「ふわっとのせる」

イメージで捉えてる人も多いでしょ（笑）。でも、ハリスはそつそつノーテンションにはならないという話をさんざんしたね。「底の悪さ」にも種類があると思うけど、例えば「カカリ」なら、切った方がいいに決まってる。「ふわっとのる」は思い込みなんだから、力あるものは力かるよ（笑）。「切り気味のタナで釣る」場合に問題になるのは、「完全底釣り」との絡みだね。底釣り規定の池で、ヘドロで底が気に入らないからって底切っちゃ違反だ（笑）。だから実は意外と難しい問題という事になるのかな…。

「底いら辺釣り」との絡みになるけど、「切り気味のタナで釣る」という選択は、「アタリを

とるタイミングの変更」という部分も含まれてくる。「切り気味」でぶら下げる（ハリスが突つ張った状態で）待つというのは、魚にしてみたからかなり抵抗の大きいタナ設定だよね。このタナ設定で食つてくるとしたら、かなり高活性な状態と言えるわけだ。ならば、落ち込み気味でもいいんじゃないかということだね。

江..なるほど。でもそれって…人間都合…です
北..あつ、そうですね！

北..全くそのとおり。例えば、よく「宙釣り感覚」と紹介されている「藻面」の釣り。このゼミで言えば「底いら辺釣り」という事になるよね。あまり一般的な捉え方ではないけれど、この「藻面」の釣りを「底が悪い」ケースとして捉えたらどうかな？ この釣りが有効なのは、時期的には乗っ込みシーズンがメイン。ということは、そもそも活性が高いへらを相手にする事になるわけだ。

江..つまり、人間都合とへらの状態が、たまたま合致した時にはじめて成立するってわけですね？

北..そう。人間都合にへらが合わせてくれるなんて、そうそうないんだからね。だから活性の高いへら頼みつてわけだ。

江..あれっ？ ジャア、活性が低くて「切り気味のタナ」が決まらない時はどうするんですか？

北..底釣りやめる（笑）。

江..ええっ、マジですか？ えらいあつさりますね（笑）。もうちょっとこう、何かないですか（笑）？

北..マジです（笑）。いや実際、裏技はあるよ。例えば「藻面」だったらうーんとハリスのをばして、今度こそ「ふわっとのせる」イメージとかさ。でもいつもいつもそういう技が効くわけじゃないし、完全底釣りという点にこだわれば、やっぱり「底が悪い」のは厳しいよ。無理なものは無理（笑）。

江..なんだか北城さんらしくないような…。

北..いやいや全く俺らしいと思うよ（笑）。「じのへらをターゲットにするか」って話、もう忘れちゃったかな？ 底釣り規定の池でもない限り、「悪い底で釣り続けなければならない」理由がないでしょ？ 難しいタナやへらを相手にするのが樂しいってんなら、いいけどさ。勉強にもなるし。でも、トーナメントや例会本番でそんな事してたらマズいでしょ。頭の切り替えも必要だよね、江成君！

江..頭痛いっす…。
北..ところで、そろそろ釣りしようか。

というわけで、二人は舟を出した。放流してから日が浅かった取材当日（昨年末）、「昨日までの目前で十分釣れていたよ」という中島屋御主人のアドバイスで、舟着き場の目前に舟を付けた。しかし結果は芳しくなかった。数枚は釣ることが出来たが、一枚釣るときはマフナになってしまってた。横利根独特の「波さ」であると受け止めていたのだ。これについて氏は、「居るのに釣れないのが渋いのであって、薄くて釣れないのは渋いとは言わない」と。あたりまえな事ながら夢中でウキの動きを追いかけていると、冷静に判断出来ないものである。ましてやボソボソとでも釣れていればなおさらだ。

移動する前に氏は、「せっかく江成君が遠くまで来たんだから、もっと楽しむ時間をプレゼントしちゃや」と言つた。僕は正直、半信半疑だった。「見ゆの変哲もいただの川である。それほどの差があるとは思えなかつた」。

しかし移動後の第1投目から、別世界が待っていた。移動前とあまりに違う状況に、頭がついていかない。まさに「野釣りはポイントである」という事を、まさかと見つけられた。それに加え、氏のポイント選定眼に驚かされた。氏は「たまだまだよ」と笑つたが、計算じんぐされてのポイント選定に違ひない。驚きの顔を隠せない僕は、さすがに受け入れてくれた。

「自分のポイントを冷静に判断したところで、移動するかもしれないが、また別の問題。今日はたまたま結果オーライだつただけ。だから釣りは面白いんじゃないかな。よく前日に試釣したポイントへ飛んでいく人がいるけど、どうだろう？」北斗の例会の朝、当日参加の人によくポイントを聞かれるんだけど、正直困っちゃうんだよ。ポイントは朝決まるから。みんな、「北城は隠してる」って思つてるんだろうけどね。北斗はくじ順に出舟だから、試釣したポイントへ狙い通り入るのはかなり難しい。だから、当日の天気や風向き、混雑具合なんかを見てポイントを決めるわけ。だからあまりくじ運がいいと悩んじゃうね。エサもそう。その日の日の釣りだから、ゼサから探つていくんだよ。1日は長いからね。」

わっともだと思った。しかしこれらを承知の上でも、前日にいたいをしたポイントへ飛んで行かずにいるらる釣り人がどのくらいいるだろう…。

驚くのはまだ早かった。実際に竿を並べて釣りをしてみて、僕はどんでもないモノを見てしまったのだ。読者の皆さんのお想像のとおり、「釣果に圧倒的な差が出た」のは事実だが、そんな事で僕は驚きはしない。相手は名手・北城氏である。氏の理論を頭では理解していたとしても、聞くところでは大違いというやつ。口クに釣れない僕が見捨てられる心配などしていなかった。

しかし、である。この底釣りゼミは一回の授業風だが、遠い昔に氏から学んだ事もあるし、自分なりに底釣りには自信を付けていたつもりでもあったのだが…。

「今今まで差がつてしまつてはやっぱりマズいのではなかつたぜ」と感じはじめた僕は、氏の釣りをしばらく見学する事に。そこで僕が気付いた事。それは、「聞くとやるとでは大違い」という次元ではなく、底釣りを組み立てる上で基本の基本で、もうべき事、つまり長めの対話を全く理解していないかったと氏に思われても仕方のないよな事を、僕は知らずにここまで来てしまつていたという事実だった。僕にとって、これはショックイングな「発見」だった。僕は、この「発見」が思ひ過ごしてはない事を確かめたため、氏に告白する前に実践してみた。結果はすぐに出た。イレバクである…。

「江成君ベース上がったねえ」という氏の声に、僕は恥ずかしさと興奮で震えながら西口した。

氏いわく僕の「発見」は、底釣りをする全ての人が当然知つていいなければならない事であり、また誰もが当然知つていると思っていたそうだ。そのため、対談中でも特に注意はしなかつたそうである。という事は、知らないのは僕だけ？ しかし、同行した里ちゃんに確認すると、彼も知らなかつたのだ。

北城氏は「え～～？」と言ひながらも、優しい言葉でこう続けてくれた。「やっぱり田から覚えちゃつたって人が多いからかな…。古い釣り師で底釣りが得意だつていう人はみんな知つてるはずなんだ。あたりまえ過ぎて深く考えずになつてゐる人も多いかもしれないけどね。とても大事な事なんだけど、言われてみれば確かにそこまで書いてある教科書を見たことがないな（笑）。テクニックというものの知らないから語られなかつたのもかもしれないね。誰も隠してたわけじゃないと思うよ、きっと（笑）＊」（江成）

＊里ちゃん注：誌面の都合で今月はお伝え出来ないが、この先には「驚愕の新事実」が待つてゐる…。

ここまでも深い記事だったが、それも来月号への長い序章であったといつても過言ではない。絶対に見逃さないで欲しい！

♥ 来月号が気になる読者の皆さんへのヒント ♥

今月号の「田辺哲男のそれつて…」を読みなさい。

「あたりまえ」で付けられ、メディアにも載らない

基本的な事柄がまだまだ存在するという事を、改めて感じている今日この頃。「名人の秘技だけではなく、もつ根本的な部分も掘り下げてこきたい」。そう思つて立ち上げた、田辺、江成両氏の企画。おもいっきり手前味になりますが、「やってよかった」俺の目に狂ははなかつたゼ」と感動してゐる里ちゃんです！

へら鮒釣りの楽しさを追究し続ける…

へら 鮒

Monthly fishing magazine herabuna

特集

関 東 大 み 場 大 集 合 *PART II*

牛久水系
荒川水系
小貝川
野田・岩井地区
群馬地区

計43カ所一挙公開！

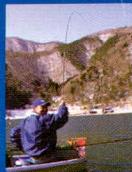


新連載 何も分からないみんなに!
あらじしのぶの
始めてみようよ、へら鮒釣り♡
Let's begin HERA FISHING with SHINO!

石井旭舟「へらぶな浪漫街道」
小池忠教「エサ合わせ大全」
山内研作＆生井淳駿「大型狙いの豪釣宣言！」
棚網久「対決mode1&2」
杉山達也「SPLASH BEAT!!」
吉川ひとみ「へらってヤバイわ!!」
田辺哲男「それってどーゆーことよ?」

豊英湖・タツボ、バラケ&グルテンで爆釣120枚!
アートヘラ・ポンド、「究極の底」を両グルで撃破!
まさにアドベンチャ!。未開の秘境、高滝ダムに挑戦!
安田克巳 vs 小野淳一
超満員! 強風!
ひとりの春遠く。
筑波白水湖、両グランプリ。
荒れる弁天FC月例大会!
雁の木湖に大雪警報発令!?
吉野修のpower balance釣法!

他手合R&黒岩Rで



特集II 精進湖開幕スペシャル。

伊藤洋一が快釣!!

● 巨べら
¥600 チャック袋入り

つれるエサづくり一筋
マルキュー

<http://www.marukyu.com/>

それが「巨べら」です。

巨べら師の必携工サ。

実現のものにするために。

声にならない感動を、

ブレンドしました。

麸、グルテンを最適な割合で

良質なものだけを使用し、

超大型のみを狙うための白エサ一皿大ら。



ドクシン

